

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

# 事業報告書

第 11 卷

令和 6 年度

石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター

## 巻 頭 言

令和6年度の本看護キャリア支援センターのメイン事業は、特定行為研修を含む皮膚・排泄ケア認定看護師の教育課程を開講し、無事修了生を輩出することでした。認定看護師教育は、これまで本センターでは感染管理と認知症看護を開講していましたが、皮膚・排泄ケアという新たな分野で今年度開講でしたが、この令和7年3月に無事入学者30名全員が修了いたしました。

特に、特定行為研修を含む認定看護師教育ということで、この皮膚・排泄ケア分野では「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」と「創傷管理関連」の2区分における4行為を学習し、指導医の下で臨床にて実践しながら学習をする必要がありました。本センターは特定行為研修の指定教育機関として厚生労働省より指定されておりますが、病院を有しておりません。そのため、この特定行為の実習は、すべて自施設外となります。よって本教育課程の受講生の有無にかかわらず多数の病院に、協力施設として登録いただき実習指導を行っていただきました。この支援により、受講生全員が期間内に実習で既定の症例数に達することができました。心より感謝申し上げます。

また、認定看護師の実習においては、北陸3県の皮膚・排泄ケア認定看護師の方々が初めての实習指導に携わっていただきましたが、丁寧にご指導くださいましたこと深く感謝いたします。

本看護キャリア支援センターは、これからも地域医療の発展に寄与するべく、さらなる努力を続けてまいります。また、この皮膚・排泄ケア認定看護師の教育課程は令和7年度と8年度も開講いたします。今後ともご支援を賜りますれば幸甚に存じます。

石川県立看護大学  
附属看護キャリア支援センター長  
紺家 千津子

# 目 次

I. 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程（B課程）	1-7
1. 目的	1
2. 実施状況	1
3. 実施内容	1-7
4. 評価	7
5. 今後の課題	7
II. 認定看護師教育課程フォローアップ研修	8-9
1. 目的	8
2. 日時・参加者	8
3. 実施内容	8
4. 評価	9
5. 今後の課題	9
III. 専門的看護実践力研修事業「看護管理者研修」	10-14
1. 目的	10
2. 目標	10
3. 募集人員および研修方法	10
4. 実施状況	10
5. 実施内容	10-11
6. 評価および今後の課題	11-14
IV. 専門的看護実践力研修事業（分野別実践看護師養成研修）「皮膚・排泄ケア」	15-21
1. 目的・目標	15
2. 実施状況	15
3. 募集人員および研修方法	15
4. 実施状況	15
5. 実施内容	15-17
6. 評価および今後の課題	17-21
V. 石川県看護教員現任研修	22-27
1. 目的・目標	22
2. 実施状況	22
3. 実施内容	22-23
4. 評価	23-26
5. 今後の課題	27
VI. リカレント教育事業	28
1. 目的・目標	28
2. 実施事業および内容	28
3. 評価および今後の課題	28
VII. 地域貢献	29
1. 各機関からの依頼による派遣事業	29

## I. 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程（B課程）

### 1. 目的

- 1) 皮膚・排泄ケア分野において、個人、家族及び集団に対して、高い臨床推論力と病態判断力に基づき、熟練した看護技術及び知識を用いて水準の高い看護を実践できる能力を育成する。
- 2) 皮膚・排泄ケア分野において、看護実践を通して看護職に対し指導を行える能力を育成する。
- 3) 皮膚・排泄ケア分野において、看護職等に対しコンサルテーションを行える能力を育成する。
- 4) 皮膚・排泄ケア分野において、多職種と協働しチーム医療のキーパーソンとしての役割を果たせる能力を育成する。

### 2. 実施状況

#### 【期間】

令和6年4月3日（木）～令和7年3月27日（木）

#### 【履修生の背景】

##### 1) 基本属性

履修生数	30名	
男女別	男性4名 女性26名	
平均年齢	39.7歳（29～54歳）	
所属施設の所在地	石川県内	11名
	石川県外	19名
所属機関	病院28名 訪問看護ステーション1名 その他機関1名	

2) 入学時の臨床経験年数 15.6年

3) 特定行為研修既取得者 3名

### 3. 実施内容

#### 【教育課程の実施概要】

項目	期間
入学式・ガイダンス	令和6年4月3日（水）・4日（木）
講義開始（eラーニング視聴開始）	令和6年4月
eラーニング期間の対面授業	令和6年5月15日（水）～5月17日（金） 令和6年6月19日（水）～6月21日（金）
対面講義開始	令和6年7月22日（月）
認定看護師分野実習	10月～11月（5週間）
区分別科目実習	12月～2月 区分別科目における実習は規定症例数を満たした時点で終了
統合演習	令和7年2月28日（金）
修了試験	令和7年3月6日（木）
修了式	令和7年3月27日（木）

【年間進度表】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
e-ラーニング 入 特定行為共通科目 学 式			集合教育等 認定看護師分野 共通科目・専門科目 特定行為区分別科目			実習 → 認定 臨地実習			学内演習 特定行為 実習 統合演習 修了試験			修 了 式

【カリキュラム】

認定看護師教育課程のカリキュラムは、認定看護師の水準を均質にするため、公益社団法人日本看護協会が定める教育基準カリキュラムに則って構成されている。日本看護協会が定めた認定看護師教育基準カリキュラムは、各分野に共通している「共通科目」と各分野の専門的知識を学ぶ「専門基礎科目」と「専門科目」、「学内演習及び臨地実習」に分かれている。修了要件は、「共通科目」「専門基礎科目」「専門科目」「学内演習及び臨地実習」のすべての授業科目を履修し、かつ修了試験に合格することである。

【授業科目および時間数一覧】

授業科目		時間数		
共通科目	臨床病態生理学	40	380	
	臨床推論	45		
	臨床推論：医療面接	15		
	フィジカルアセスメント：基礎	30		
	フィジカルアセスメント：応用	30		
	臨床薬理学：薬物動態	15		
	臨床薬理学：薬理作用	15		
	臨床薬理学：薬物治療・管理	30		
	疾病・臨床病態概論	40		
	疾病・臨床病態概論：状況別	15		
	医療安全学：医療倫理	15		
	医療安全学：医療安全管理	15		
	チーム医療論（特定行為実践）	15		
	特定行為実践	15		
	指導	15		
	相談	15		
看護管理	15			
専門科目	認定看護分野 専門科目	皮膚・排泄ケア概論	15	195
		皮膚のアセスメントとケア	30	
		精神面のアセスメントとケア	15	
		排便機能に破綻をきたす病態の理解と評価	15	
		排尿機能に破綻をきたす病態の理解と評価	15	
		ストーマの管理	30	
		排泄障害の管理	30	

		創傷のアセスメントと管理	45	
	特定行為研修 区分別科目	創傷管理関連	46	68
		栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	22	
演習・ 実習	統合演習		15	165
	臨地実習		150	
	特定行為実習		高カロリー栄養 症例脱水管理 壊死組織の除去 局所陰圧閉鎖療法	5症例 5症例 5症例 5症例
合計時間数				808

\*認定看護師教育基準カリキュラムでは45分を1時間とみなす「みなし時間」を適用している。特定行為研修は60分を1時間とする「実時間」を適用しているが、該当教科目の時間数は全て「みなし時間」で設定し表記している。

### 【担当教員】

主任教員：石井 光子（講師）

担当科目：チーム医療論（特定行為実践）、指導、相談、皮膚・排泄ケア概論、  
皮膚のアセスメントとケア、ストーマの管理、排泄障害の管理、  
創傷のアセスメントと管理、統合演習、臨地実習

専任教員：宮崎 梓（講師）

担当科目：チーム医療論（特定行為実践）、指導、相談、皮膚・排泄ケア概論、  
皮膚のアセスメントとケア、ストーマの管理、排泄障害の管理、  
創傷のアセスメントと管理、統合演習、臨地実習

### 【非常勤講師】

共通科目（認定看護師分野も含む）と特定行為研修「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」は日本看護協会のeラーニング教材を使用した。特定行為研修「創傷管理関連」はS-QUE研究会のeラーニング教材を使用した。

専門科目は皮膚・排泄ケア分野において第一線で活躍する本学の教員や各専門分野の大学の教授・准教授・講師、医師や看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師の方々に非常勤講師として講義・演習等を担当していただいた。ここでは、e-ラーニングの講師以外を示した。

講師名	所属	担当科目
岩佐 和夫	石川県立看護大学 健康科学講座 教授	フィジカルアセスメント基礎
中橋 毅	金沢医科大学病院 総合診療センター センター長 教授	フィジカルアセスメント基礎
守屋 純二	金沢医科大学病院 准教授	フィジカルアセスメント基礎
山田 鈴世	石川県立中央病院 医療安全部 医療安全管理室次長	医療安全学：医療安全管理
池田富三香	石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター 特任准教授	看護管理

講師名	所属	担当科目
真田 弘美	石川県立看護大学 学長 皮膚・排泄ケア認定看護師	皮膚・排泄ケア概論
紺家 千津子	石川県立看護大学 成人看護学講座 教授 看護キャリア支援センター長 皮膚・排泄ケア認定看護師	皮膚・排泄ケア概論 精神面のアセスメントとケア 創傷のアセスメントと管理
田中 秀子	湘南医療大学看護学科 教授 皮膚・排泄ケア認定看護師	皮膚・排泄ケア概論
高橋 秀典	JCHO 勝山総合病院 皮膚科主任部長	皮膚のアセスメントとケア
峰松 健夫	石川県立看護大学 成人看護学講座 教授	皮膚のアセスメントとケア 創傷のアセスメントと管理
大貝 和裕	石川県立看護大学 看護理工学共同研究講座 共同研究講座 教授	皮膚のアセスメントとケア
臺 美佐子	石川県立看護大学 成人看護学講座 教授 リンパ浮腫療法士 医療リンパドレナージセラピスト 中級弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター	皮膚のアセスメントとケア
今方 裕子	石川県立看護大学 成人看護学講座 講師 がん看護専門看護師	皮膚のアセスメントとケア
戸部 浩美	石川県立看護大学 小児看護学講座 教授	精神面のアセスメントとケア
松本 友梨子	福井県済生会病院 皮膚・排泄ケア認定看護師	精神面のアセスメントとケア
渡邊 千登世	神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 看護学科 准教授 皮膚・排泄ケア認定看護師	精神面のアセスメントとケア
藤田 秀人	金沢医科大学 一般消化器外科学 准教授	排便機能に破綻をきたす病態 の理解と評価
河野 美幸	医療法人社団浅ノ川 千木病院 副院長	排便機能に破綻をきたす病態 の理解と評価 排尿機能に破綻をきたす病態 の理解と評価
津田 桃子	公益財団法人 北海道対がん協会 内科部長	排便機能に破綻をきたす病態 の理解と評価
森山 学	金沢医科大学氷見病院 泌尿器科 教授	排尿機能に破綻をきたす病態 の理解と評価
西本 由美	小松市民病院 皮膚・排泄ケア認定特定看護師	ストーマの管理
小柳 礼恵	藤田医科大学 保健衛生学部 准教授 皮膚・排泄ケア認定看護師	ストーマの管理
山下 美樹	JCHO 金沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師	ストーマの管理
小西 千枝	金沢赤十字病院 皮膚・排泄ケア認定看護師	ストーマの管理

講師名	所属	担当科目
遠藤 瑞穂	金城大学 看護学部 特任講師 皮膚・排泄ケア認定看護師	排泄障害の管理
溝上 祐子	東京医療保健大学 大学院 医療保健学研究科 プライマリケア看護学領域 准教授 E.T	排泄障害の管理
小町 茉亜莉	小松市民病院 皮膚・排泄ケア認定看護師	排泄障害の管理
大桑 真由美	金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授	排泄障害の管理
須釜 淳子	藤田医科大学 老年看護学分野 教授	創傷のアセスメントと管理
神野 俊介	一般社団法人オーディナリーライフ 代表 理学療法士	創傷のアセスメントと管理
木下 幸子	中部学院大学 基礎看護学講座 教授 皮膚・排泄ケア認定看護師	創傷のアセスメントと管理
大江 真琴	金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授	創傷のアセスメントと管理
志村 知子	医療法人幸優会訪問看護ステーション Pono 所長 皮膚・排泄ケア認定看護師	創傷のアセスメントと管理
松本 勝	石川県立看護大学 成人看護学講座 准教授	創傷のアセスメントと管理
一瀬 文江	公立能登総合病院 皮膚・排泄ケア認定看護師	創傷のアセスメントと管理
小室 明人	金沢大学附属病院 形成外科 診療部長	特定行為研修 創傷管理関連
島田 賢一	金沢医科大学病院 形成外科 教授	特定行為研修 創傷管理関連

#### 【認定分野臨地実習施設】

No	施設名	実習指導者
1	国立大学法人 富山大学附属病院	吉井 忍
2	富山県立中央病院	志田 麻衣子 藤元 岬
3	富山県厚生連農業協同組合連合会 高岡病院	開 千春 山田 優子
4	市立砺波総合病院	森田 初美
5	高岡市民病院	東城 美智代 河上 裕子
6	公立能登総合病院	一瀬 文江 花出 利恵
7	地域医療機能推進機構 金沢病院	山下 美樹 久保田 陽子
8	国立病院機構 金沢医療センター	尾西 恵理
9	国立大学法人 金沢大学附属病院	越田 貴美子 山田 清美
10	金沢赤十字病院	小西 知恵

No	施設名	実習指導者
11	石川県立中央病院	村田 幾美 栗田 純礼
12	白山石川医療企業団 公立松任石川中央病院	寺田 満美子
13	国民健康保険 小松市民病院	西本 由美 小町 茉亜莉
14	国立大学法人 福井大学医学部附属病院	加納 恭子
15	福井赤十字病院	水島 典子 上口 美恵
16	福井県済生会病院	吉村 紀美枝 山口 静香 木下 治子
17	福井県立病院	宮嶋 仁美 岡田 さおり

【特定行為研修実習施設および実習した特定行為一覧】

履修生の所属施設で実習を行った。症例が不十分な場合は自施設以外の協力施設で実習を行った。

注：○：自施設で全症例実施 △：自施設で全症例とれない —：自施設では実習症例がない

実習施設 1（履修生の所属施設における実習施設）	創傷管理		栄養水分	
	壊死組織	陰圧閉鎖	脱水	高カロリー輸液
日本赤十字社医療センター	○	○	○	○
金沢赤十字病院	○	○	○	○
市立敦賀病院	○	○	○	○
石川県立中央病院	○	○	○	○
学校法人 順天堂大学医学部附属順天堂病院	○	○	○	○
近江八幡市立総合医療センター	○	○	○	○
公立能登総合病院	○	○	○	—
独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立医療センター中央市民病院	○	○	○	○
医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院	○	—	○	○
獨協医科大学病院	○	○	○	○
白山石川医療企業団 公立つるぎ病院	—	—	○	△
岩手医科大学附属病院	○	○	○	○
独立行政法人国立病院機構弘前総合医療センター	○	△	○	○
市立砺波総合病院	○	—	○	○
社会福祉法人恩賜財団済生会 石川県済生会金沢病院	○	△	○	○
山形県立新庄病院	○	○	○	○
神戸市民病院機構 西神戸医療センター	○	○	○	○
岩手県立久慈病院	○	○	○	○
北海道公立大学法人 札幌医科大学附属病院	○	○	○	○

実習施設 1（履修生の所属施設における実習施設）	創傷管理		栄養水分	
	壊死組織	陰圧閉鎖	脱水	高カロリー輸液
八尾市立病院	○	○	○	○
藤田医科大学病院	○	○	○	○
国立大学法人 金沢大学附属病院	○	○	○	○
名古屋市立大学医学部附属東部医療センター	○	○	○	○
社会福祉法人恩賜財団済生会 富山県済生会高岡病院	△	—	○	○
独立行政法人地域医療機能推進機構 群馬中央病院	○	—	○	○

実習施設 2（履修生の所属施設以外の実習施設）	創傷管理		栄養水分	
	壊死組織	陰圧閉鎖	脱水	高カロリー輸液
独立行政法人国立金沢医療センター	○	○	○	○
国立研究開発法人国立長寿医療研究センター	○	○	—	—
金沢医科大学病院	○	○	—	○
公立松任石川中央病院	—	—	○	○
独立行政法人地域医療機能推進機構 勝山総合病院	○	○	—	—

#### 4. 評価

履修生の学習の到達度評価では、多くの履修生が教育内容全般において理解や実践力の向上を実感していた。また、授業評価では専門医やリハビリ専門職など他職種による講義により、多角的な視点からの学びができたとの評価もあった。これらより、認定看護師として求められる個人を多角的に捉え、高い臨床推論力・病態判断力に基づいた質の高い医療の提供や多職種連携の重要性を学べたと考えている。さらに、演習や事例検討を通じて履修生同士が意見を交わす場を多く設けたことにより、能動的な学習が促進したと評価している。ただし、一部の科目において評価が相対的に低かったことより、履修生からのフィードバックを踏まえ、授業内容や指導方法の検討をしていく。

#### 5. 今後の課題

今後の課題としては、評価が相対的に低かった科目について、教育内容や指導方法の改善が挙げられる。また、教育課程修了後の継続教育やフォローアップ体制の整備も重要な課題である。現場での実践を通じて得た知識や技術を定期的にアップデートするために、相互交流の機会を提供する体制の構築が求められている。

## II. 認定看護師教育課程フォローアップ研修

### 1. 目的

看護キャリア支援センター 認定看護師教育課程の修了生のブラッシュアップを支援する。

### 2. 修了生全体を対象とした講演会

【日時】令和7年3月17日(月) 10:00～12:00

【参加者】62名(認知症看護認定看護師51名 感染管理認定看護師7名 認定看護管理者4名)

#### 【実施内容】

##### ○講演会

演題：地域の高齢者を護る認定看護師の役割

講師：川島 和代(石川県立看護大学 学部長)

##### ○意見交換

これからの認定看護師制度

池田富三香(石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター 特任准教授)

### 3. 感染管理認定看護師教育課程(4期生)

【日時】令和6年11月30日(土) 14:00～17:00

【参加者数】4期生 24名

#### 【実施内容】

テーマ：knowledge is power. (知は力なり；Francis Bacon)

##### ◎能登半島地震に関する報告

報告1：地震を体験して～病棟から～	恵寿総合病院	土谷 節
報告2：避難所支援を行って	公立河北中央病院	松本寛志
報告3：被災地基幹病院の立場から	公立能登総合病院	櫻井美幸
報告4：被災地の医療支援に赴いて(富山)	富山赤十字病院	長枝智子
報告5：被災地の医療支援に赴いて(石川)	金沢医科大学病院	西岡美穂
報告6：被災地からの受け入れ	高岡市民病院	長谷川裕

座長：高松 広彰(市立砺波総合病院 感染管理認定看護師)

##### ◎CNIC お悩み相談室

他の施設ではどうしている？○○について教えてほしい、研修のネタは？など、気軽に質問しあい、みんなで情報共有する

座長：萩行 愛(医療法人社団紫蘭会 光ヶ丘病院 感染管理認定看護師)

### 4. 認知症看護認定看護師教育課程(1～3期生)

【日時】令和7年3月17日(月) 13:00～15:00

【参加者】1-3期生 51名

#### 【実施内容】

##### ◎活動報告・事例検討

認知症高齢者の身体拘束解除への取り組み 1期生 大城 宏子(富山労災病院)

手と心をつなぐ認知症マップについて 2期生 岡部 真美(松原病院とびうめ館)

実践報告 軽度認知障害(MCI) デイケアの実施に向けた取り組み

3期生 保科 三千代(国立病院機構さいがた医療センター)

## 5. 評価

今年度は、皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の特別講演の一部をフォローアップ研修として本学修了生に公開し、さらに感染管理認定看護師教育課程と認知症看護認定看護師のコース別に実施した。

感染管理分野は4期生が中心となって実践報告会を開催することとなったので、看護キャリア支援センターとして企画段階から支援し、富山赤十字病院で実施した。24名が現地とオンラインで参加し、年度当初に遭遇した能登半島地震における感染管理認定看護師としての活動を報告し、災害時の支援体制や感染管理認定看護師としての災害時の支援や活動について意見交換を行った。まだ復興途上にある被災地への支援などについても意見交換し、施設だけに関わらず地域、広域の協力体体制の維持についてなどお互いの状況を共有し、改めて協力し合うことが確認できた。

認知症看護分野は、1－3期の修了生51名が参加し、3事例の実践報告があった。報告の後はグループに分かれて事例を中心にお互いの実践について話し合い、日々の看護について共有した。認知症、軽度認知症の方々が増加するなか、午前中の川島学部長の講演内容も踏まえて、真の意味での当事者主体について深く考える機会となった。またお互いの活動を共有し、今後の活動の活力になった。

## 6. 今後の課題

今年度日本看護協会から、認定看護師・認定看護管理者認定審査の制度が大きく変化することが表明された。新制度に移行するまでの移行期間や移行後を見据えたフォローアップ研修の企画が必要である。修了生の教育課程が感染管理、認知症看護、皮膚・排泄ケア、看護管理と幅広くなってきたため、修了生全体が興味をもてる企画を立案していく必要がある。また分野ごとの活動を支援する体制を検討する。

### Ⅲ. 専門的看護実践力研修事業「看護管理者研修」

#### 1. 目的

人口減少、超高齢化時代の医療を担う看護管理者として活躍できるよう、看護管理に関する基本的な知識について学び、管理者としての自己の役割と実践を展望する

#### 2. 目標

- 1) 看護管理に必要なリーダーシップについて理解する。
- 2) 組織の目標を達成するために、成長するチームづくりについて理解する。
- 3) 看護師が働きやすい職場環境を整えるための基礎知識を理解する。
- 4) 倫理的な実践を行うために、組織における倫理的課題について理解する。
- 5) 組織の課題を達成するためのデータの活用と組織分析の基本を理解する。
- 6) 学んだ内容と照らし合わせながら、管理者としての自己の役割と実践を展望する。

#### 3. 募集人員および研修方法

研修日：令和6年11月22日（金）、11月29日（金）、11月30日（土）、12月7日（土）

募集人員：40名（副看護師長以上もしくは同等の職位にある看護職）

研修方法：1・2・4日目：会議ソフト「Zoom」によるオンライン講習、  
3日目：集合研修（石川県地場産業会館 第6研修室）

#### 4. 実施状況

参加者：76名（石川県内全域の病院、訪問看護ステーション、高齢者施設）

受講者の背景：

看護師経験年数：平均24年

職位：副看護師長・主任等45名、看護師長25名、副看護部長・看護部長・管理者等6名

施設別：病院71名、訪問看護ステーション3名、介護系施設その他2名。

#### 5. 実施内容

表1に示す。

表1. 研修日程と内容

月日	時間	テーマ・内容	講師名（敬称略）
11/22 （金）	10：30～	受講方法についてオリエンテーション 開講式	石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター センター長 紺家 千津子
	11：00～11：40	石川県の看護の状況	石川県健康福祉部医療対策課 谷場 美雪
	13：00～15：30	看護管理の基礎知識とリーダーシップ	石川県立看護大学 名誉教授 丸岡 直子
11/29 （金）	9：00～12：00	機能する看護チームをつくる （teaming）	石川県立看護大学 名誉教授 丸岡 直子

月日	時間	テーマ・内容	講師名（敬称略）
11/29 （金）	13：00～16：00	看護師の働き方を支えるための基礎知識 -労務管理の基礎・職場のハラスメント-	加藤社労士弁護士事務所 加藤 明子
11/30 （土）	9：00～12：00	看護管理者としての能力開発	石川県立看護大学 名誉教授 丸岡 直子
	13：00～15：30	組織における倫理的課題	常磐大学 教授 吉田 千文
12/7（土）	9：30～12：00	看護管理者のための病院（病棟）経営-データを活用した看護管理-	滋賀県立総合病院 院長補佐兼看護部長 西村 路子
	13：00～15：30	組織の課題達成にむけて—組織分析の意義と手法—	独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター 看護部長 藤田 恵子
	15：30～15：45	アンケート/閉校式	石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター センター長 紺家 千津子

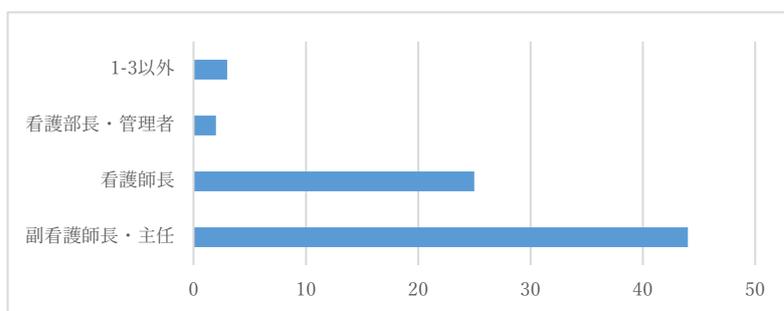
## 6. 評価および今後の課題

### 1) 受講生のアンケートによる評価

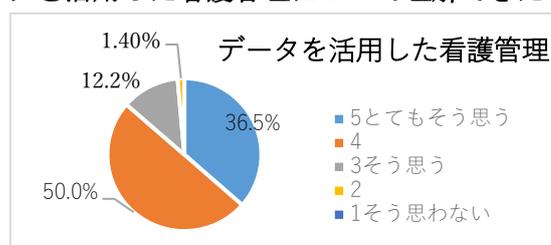
参加者 76 名中 74 名より回答（回収率 97%）

#### ■参加者の職位 (人)

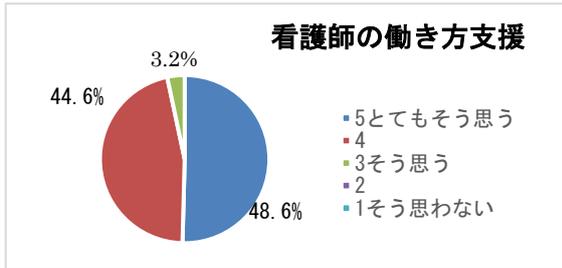
1. 副看護師長または主任	44
2. 看護師長	25
3. 看護部長または管理者	2
4. 1-3 以外	3
	74



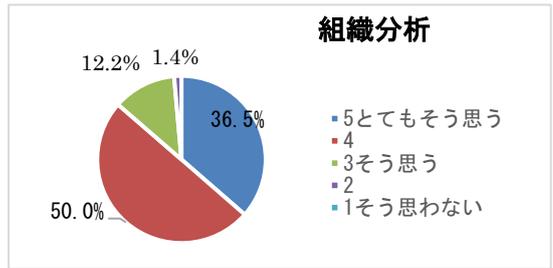
#### ■看護管理とリーダーシップについて理解できた ■データを活用した看護管理について理解できた



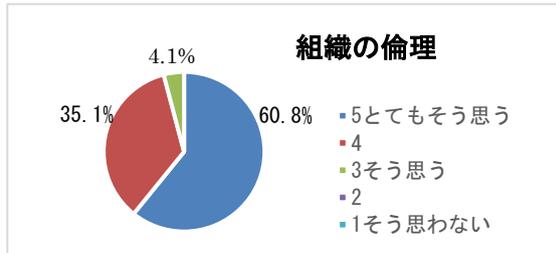
■看護師の働き方支援について理解できた



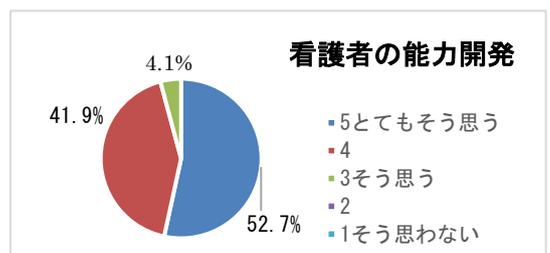
■課題達成のための組織分析について理解できた



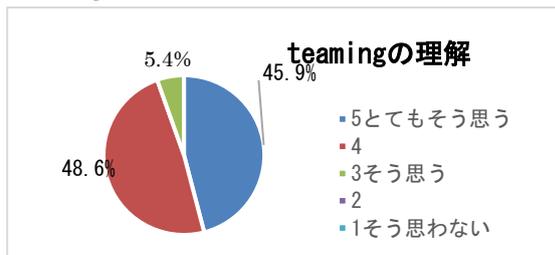
■組織における倫理について理解できた



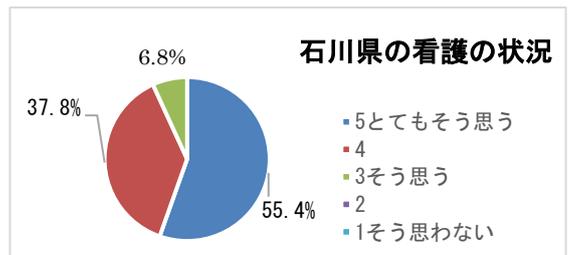
■看護管理者の能力開発について理解できた



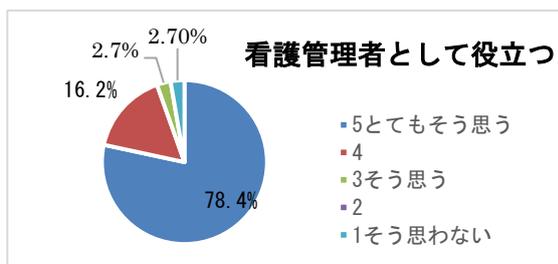
■teaming について理解できた



■石川県の看護の状況を知ることができた



■研修は看護管理者として役立つ



■研修の学び

- とても濃厚な研修期間でした。資料は大切なことばかり載っているため今後も活用していけると思いました。対面での研修では他施設の方との情報交換や身体拘束ゼロまでのエピソードを聞くことができ貴重な体験でした。中でも、丸岡先生の毎日の業務を終えたときに今日行ったことが管理者の能力のどの部分に当たるのか振り返り自分を承認してくださいというお言葉が胸に刺さりました。今の私にとっても必要なことだと感じ、実践していきたいと思えます。
- 研修を通して看護管理の奥深さと講師の先生方の熱意を感じました。看護管理者としての知識と行動力が不足していることを実感し途方にくれましたが、今からやるべき課題を明確にし、前向きに頑張る勇気をもたらえた気持ちになりました。
- この研修に参加し、「やらされ感」で満載の主任業務も目的を持って頑張れそうです。師長補佐だけでなく病院経営や自分達の在り方も見直すきっかけになりました。離職も多い中で残るスタッフは本当に

ギリギリで頑張っています。「業務ではなく看護がしたい」という気持ちを話してくれた先輩がいます。何とか働く環境を少しでも改善したいと、今ともに働く仲間を大切にしていきたいと思っております。得たものを活かせるようにフィードバックできるように周りや相談していきます。後、看護学校卒業以来、逢っていなかった珠洲の同級生に逢うことができました。「一緒に頑張ろう」と笑顔で再開を誓いました。得るものが多く気持ちもほっこりしました。

- 倫理的にも感銘を受け、改めて看護師として、管理者として身の引き締まる思いになりました。経営や組織については全部が理解できたとは言い難いですが、すぐに役立てることができるように思います。
- 看護管理者の経験が少ないですが、データ分析の重要性や看護管理とは、倫理とは学ぶ事ができました。師長さんは普段からこんな視点で考えているんだ、こう考えればいいんだということが分かりました。
- 労務管理、ハラスメントに関して知識を深めたいと思っていたので研修、資料を今後も活用していきたいと思います。
- 病院内外の状況においても、労務管理、組織分析して目指すところを見出すにも、知識が弱く、勉強になりました。この資料を活用し、部署分析を行いたいと思います。
- 以前勤務していた病院で、副師長として経験してきたこと、学んだことが自分の土台、看護観の軸になっています。それも大事にしなが、過去の成功体験が足かせにもなるということを学んだので、ブラッシュアップし、自分ができることを探していこうと思いました。数字は苦手ですが、目標達成には不可欠であることも理解できました。分析法は一人で考えるのは難しそうですが、思考を学べたので少しでも実践の中で活かしていこうと思います。
- 今回久々に研修に参加し、患者さんのために、より良い看護のために...と考えることが、楽しく、懐かしく、看護者としての喜びを感じることができました。今後も学ぶ機会を大事にしたいです。
- 今一度、自分に不足している知識や能力を知ることが出来ました。自己研鑽し経営においても一度数値化してみたいと思いました。分析においては、知識不足を感じたので、学びが必要だと思い、今後また研修などに参加したいと思います。
- セカンドを3年前に受講し、復習になったとともに、SWOT分析で今一つ分からなかったところが今回の講義で理解できました。
- 管理者業務に対してとても負担で、不安でした。今でもそうですが、この研修に参加して、少し頑張ってみようかな、自分なりに研修を生かしてやってみようかなと思えました。ただ、組織分析の講義は難しかったです。
- 今回の研修参加について、迷っていたが参加してよかったと思いました。管理について、どのように師長のサポートしてよいか迷うこともあり、自分なりに学びを活かしていきたいと思います。最後の医療センターの地震時の分析や受け入れ時の対応について聞き、私たち能登の人たちは皆さんに守られていたんだと実感しました。
- 貴重な勉強をさせて頂きありがとうございました。能登で震災を体験し、その際の対応大変助かりました。それについても大変な思いをされた事がよくわかりました。
- 今年度看護師長に昇任し、他県より転勤してきたため、石川県の現状を知ることができて良かったです。また、看護管理者としての自身の役割や、現場を俯瞰するための情報分析ツールの活用方法について学ぶことができました。配置されてから、ようやく地域における病院の役割や自部署の状況やスタッフ個々の特徴を把握できてきましたが、その情報からここでの学びを活かし、分析して目標達成に向けての戦略を立て、スタッフと共に同じ方向に向いて取り組めるように頑張っていきたいと思いました。

#### ■研修方法等へのご意見

- 資料が冊子になっていて、とても良かったです。

- ZOOM のみならず、対面の機会もいただき、感謝しています。今後もブラッシュアップしていきたいと思います。
- 4 日間のうち対面講義が 1 日だけだったのが残念でした。対面のほうが参加者といろいろ情報交換ができて有意義でした。半分の 2 日間は対面講義でもよいのではないかと思います。
- Zoom での研修だったので参加しやすかったです。資料はわかりやすく貴重な財産になりましたので、振り返りや学び直しに活用したいと思います。
- 研修に参加できる場合、早めに連絡をいただくとありがたいです。「参加できるかわからない」と言われていたので普通に勤務を組んでしまいました。半日研修参加できないことにもなったので非常に残念です。

## 2) 全体的な評価

申し込み最終日にメールで連絡をいただいた 2 施設 4 名の方の受付漏れる事務的ミスがあったため施設と参加者の方にご迷惑をおかけした。参加希望者が多い時は特に事務処理に注意を払う。

昨年度に引き続き、対面の研修を 1 日取り入れた。オンライン研修だからこそその参加しやすさと、対面研修による講師からの直接の講義や意見交換が好評だった。また資料が冊子にまとまっていることも好評だったので今後も継続する。

長期の研修は参加しにくい方、ファース・セカンド研修修了者やトップマネージャの任にある方など幅広いニーズの方が集まった。看護管理の基礎的な考え方を中心に研修を構成しているので、研修受講時に参加者が研修内容をみて、自分なりの目標をもって出席できる研修として継続する。

#### IV. 専門的看護実践力研修「分野別実践看護師養成研修：皮膚・排泄ケア研修」

##### 1. 目的

皮膚・排泄ケア看護に関する専門的知識、技術を身に着け、看護実践力の向上を図る。

##### 2. 目標

皮膚・排泄ケア看護に関する基本を踏まえ、エビデンスのあるケアを実践するための知識と技術を理解する。さらに、自施設におけるスキンケアの管理状況より、解決策を考えることができる。

##### 3. 募集人員および研修方法

研修日：令和6年7月6日（土）、7月7日（日）、7月12日（金）、7月13日（土）

募集人員：40名（実務経験5年以上の看護師）

研修方法：会議ソフト「Zoom」によるオンライン講習

##### 4. 実施状況

石川県をはじめとする14県から88名受講した。受講者の所属施設は、病院81名、訪問看護ステーション2名、介護系施設5名であった。所属施設の所在地は、石川県65名、富山県3名、福井県7名、東京都・群馬県2名、その他に北海道、青森県、宮城県、神奈川県、静岡県、長野県、岐阜県、広島県、高知県からそれぞれ1名だった。

##### 5. 実施内容

令和6年7月6日（土）、7月7日（日）、7月12日（金）、7月13日（土）の計4日間、ストーマ・創傷・失禁ケアの3分野に関して、オンラインでグループワークを交えながら実施した（表1）。

表1. 令和6年度 研修プログラム

日時	分野	科目・講師
7月6日（土）		
9:25~9:55		看護の動向について 石川県健康福祉部 医療対策課 管理・看護グループ 係主査 谷場 美雪
10:00~10:55	Wound	褥瘡のリスクアセスメント 福井医療大学 保健医療学部 看護学科 教授 北川 敦子
11:00~11:55		体圧管理 石川県立看護大学 附属看護キャリア支援センター 講師 皮膚・排泄ケア認定看護師 宮崎 梓
13:00~13:55		MDRPU(医療関連機器圧迫創傷) 金沢医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理
14:00~14:55		創傷治癒と DESIGN-R2020 石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
15:00~15:55		スキンケアとドレッシング材の選択 JCHO 金沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山下 美樹

日時	分野	科目・講師
7月7日(日)		
9:00~9:55	Ostomy	消化器ストーマと術後管理 金沢医科大学 一般・消化器外科学 准教授 藤田 秀人
10:00~10:55		瘻孔管理 小川医院 院長 小川 滋彦
11:00~11:55	Wound	糖尿病のフットケア 金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大江 真琴
13:00~13:55		褥瘡の栄養管理 石川県立看護大学 共同研究講座看護理工学 共同研究講座准教授 長谷川 陽子
14:00~14:55		褥瘡のリハビリテーション 一般社団法人オーディナリーライフ 理学療法士 神野 俊介
15:00~15:55	Wound	褥瘡の外科的・物理的療法 金沢医科大学 名誉教授 南ヶ丘病院 院長 川上 重彦
7月12日(金)		
9:00~9:55	Continenence	IAD(失禁関連皮膚炎)とスキンケア 金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大桑 麻由美
10:00~10:55		ストーマケアの基礎 石川県立看護大学 附属看護キャリア支援センター 講師 皮膚・排泄ケア認定看護師 石井 光子
11:00~11:55	Ostomy	ストーマ周囲皮膚障害のスキンケア 金沢大学附属病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山田 清美
13:00~13:55	Wound/ Ostomy/ Continenence	ケア相談・これまでの復習 皮膚・排泄ケア認定看護師 紺家 千津子、山田 清美、石井 光子、宮崎 梓
14:00~14:55	Ostomy	下肢の潰瘍のケア 金城大学 看護学部 特任講師 皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤 瑞穂
15:00~15:55	Wound/ Ostomy	スキンケア 石川県立看護大学 附属看護キャリア支援センター 講師 皮膚・排泄ケア認定看護師 石井 光子
7月13日(土)		
9:00~9:55	Ostomy/ Continenence	泌尿器ストーマと失禁の管理 金沢医科大学 氷見市民病院 泌尿器科 教授 森山 学
10:00~10:55	Wound/ Ostomy	がん薬物療法時のスキンケア 公立小松大学 保健医療学部 看護学科 教授 松井 優子
11:00~11:55	Continenence	失禁対策 金城大学 看護学部 特任講師 皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤 瑞穂

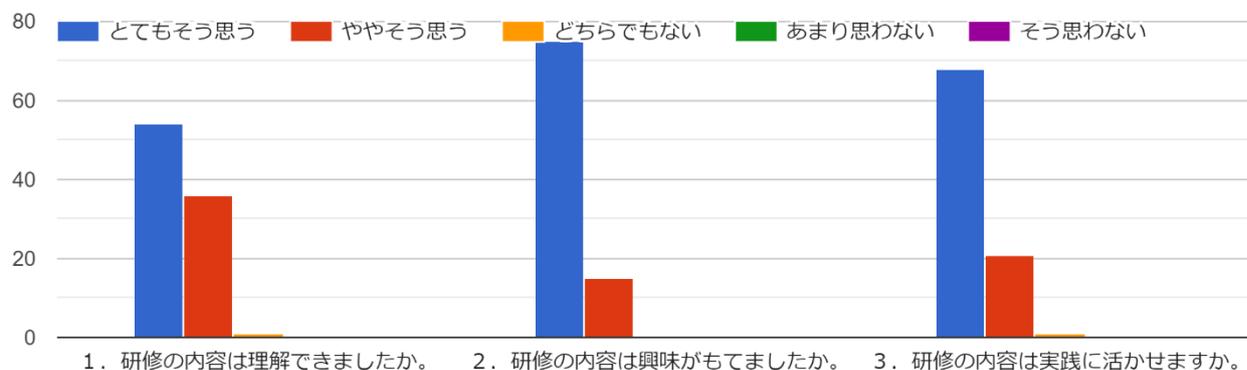
日時	分野	科目・講師
13:00～14:10	Wound/ Continence	褥瘡のケア計画 1 皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理、遠藤 瑞穂、山田 清美、山下 美樹 山田 ゆかり、紺家 千津子、宮崎 梓、石井 光子
14:15～14:45		褥瘡のケア計画 2 皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理、遠藤 瑞穂、山田 清美、山下 美樹 山田 ゆかり、紺家 千津子、宮崎 梓、石井 光子

## 6. 評価および今後の課題

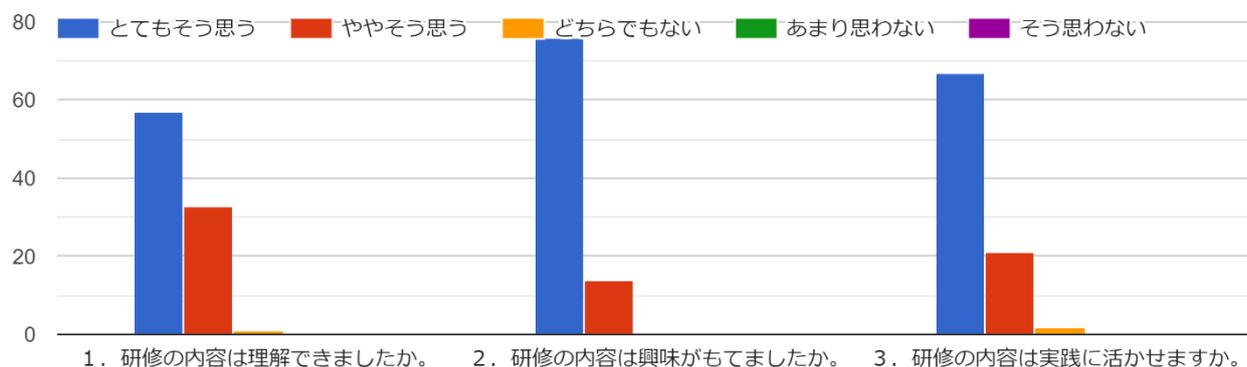
### 1) 受講生のアンケートによる評価

受講者88名中88名から回答を得た。

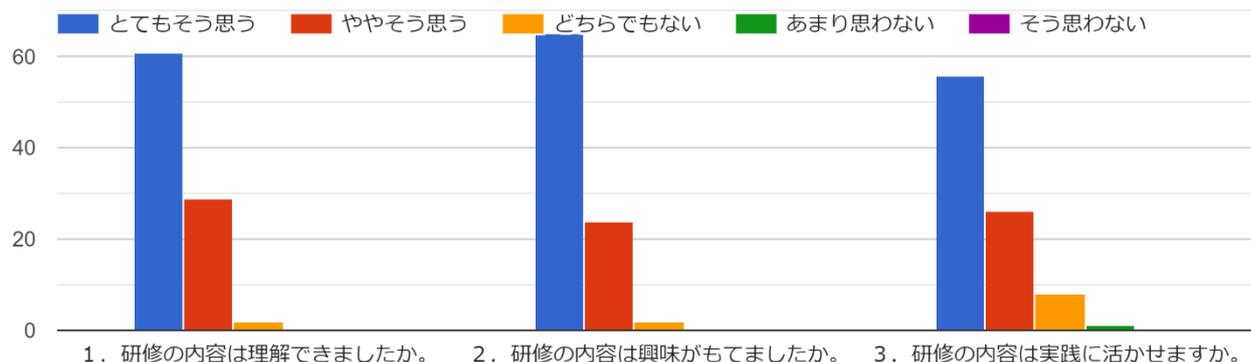
#### 【研修全体の評価】



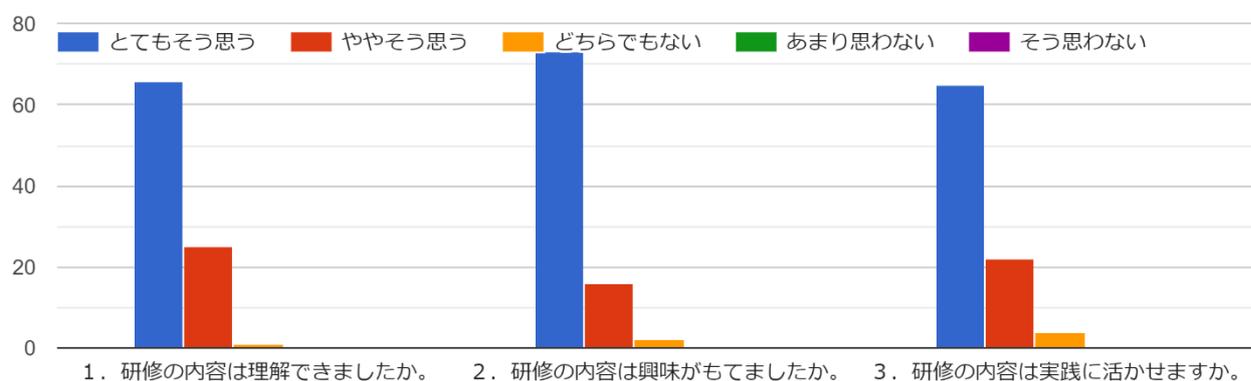
#### 【創傷ケア分野に対する評価】



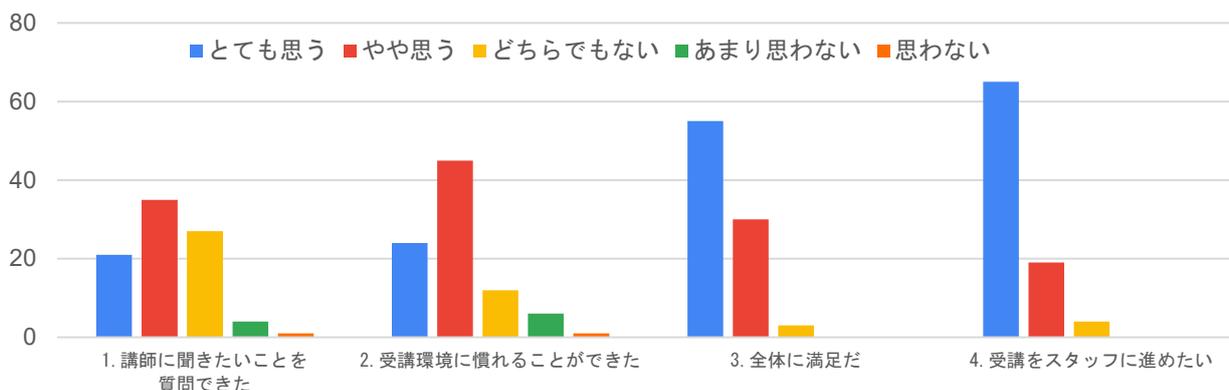
### 【ストーマケア分野に関する評価】



### 【失禁ケア分野に対する評価】



### 【オンラインによる研修に対する評価】



### ■受講した感想や学び

- WOC 各分野の内容は濃厚で忙しいくらいでしたが、DESIGN-R2020 や IAD-set、スキンケア、ABCD-stoma の評価のポイントを理解することができました。グループワークでは、他のグループの検討内容も踏まえ、参加者のリスクアセスメント能力、推理力、計画修正能力が高く感じました。自分には行動レベルで具体的に計画を立案する能力が不足していると感じました。自分の課題が明確になったため課題克服できるよう、また、日々の実践に大いに役立てられるよう、更なる学習を進めたいと思います。
- 皮膚のケアは奥が深いと思いました。

- 皮膚排泄ケアは自分の思っているよりも広範囲のものでしたのでより理解を深められました。リハビリや医師からの講義もあり、専門分野のかたの知識も学ぶことができ、今後の看護家に生かして行けそうです。
- 日頃の疑問が解消された。日々の看護ケアに活かしたいと思う事もたくさん学ぶ事ができたので病棟へも共有していきたい。
- 知識が深まり、これはどうなのだろうかと、次の興味がわきました。
- 今回の研修より、もう一段上の研修も受けたいと思いました。
- 病棟での患者対応や訪問看護での創処置を行う上でとても参考になる内容でした。
- 在宅の場面では、なかなか先生方に相談する、ということができないので、外来受診されていない方でも相談できるような場所があれば、嬉しいです
- 知りたかった分野、学びが深まった分野と多くの知識を得ることができました。スモールチェンジなど今までもやっていたことをより効果的にできるよう、早速実践していることもあります。明日からも患者さんの苦痛を取り除くことができるよう努めていきたいと思います。
- 褥瘡やスキンケアに関して、WOCにケア方法を指導してもらったことが多いが、そのケアの根拠を学ぶことができよかった。きちんと振り返りをして、今回学んだ知識を病棟で実践できるようにしたい。
- 自施設に皮膚排泄ケア認定看護師や常勤で皮膚科医師・泌尿器医師が居ないことから、加算をとっていても、実際にケアや疾患に対しての私自身理解できておらず、研修内容がとても分かりやすく今回多く学ばせていただきました。今後の看護ケアや褥瘡や排尿ケアチームの運用・ストーマ患者さんに対するケアに活かしていきたいと思います。次年度別のスタッフにも受講を勧めたいと思う内容でした。
- 今年度褥瘡対策委員会のリンクナースとなり、知識の習得かつアップデート、現場のスタッフへの発信やケアの向上を目指し本研修に参加いたしました。褥瘡ケアについて、体圧管理とポジショニング、栄養、湿潤やスキンケア、創傷ケアの必要性を再認識することができました。ストーマケア等、知識が不足している部分について講義を受けることで知れた情報もたくさんあり、多少ハードな研修プログラムでしたが、充実した4日間でした。グループワークは緊張しましたが、様々な視点からのアプローチをディスカッションし、患者さんを捉えることは大切だなと感じました。
- 看護の道に入り20数年。初めて伺った学会が、褥瘡学会でした。金沢でした。真田先生、須釜先生、基調講演は日野原先生だったと記憶しています。ブレーデン氏もでしたか。褥瘡に興味を持った瞬間を、今はっきり思い出ことができました。あれから約20年ぶりに、しっかり学ばせて頂きました。新たなツール、スケールがこんなにあるとは。また、より細分化したエビデンスの多さに、驚きと、不安を感じています。今後、どう現場に伝えるかが課題となりますが、まずは、充実した4日間になりました。
- スキンケアは高齢者が多くリハビリ介入後などにいつの間にか出血している、糜爛になっているのを発見することがあり保護や皮膚の保湿の必要性は理解できました。実際の場面では、鈎裂きの創傷にふお〜むらいとだけでの保護は交換時に皮膚欠損してしまうのではないかと不安からSSテープや茶テープ（優肌絆）を層部に貼り付け保護することが多いです。皮膚科DrやWOCナースに相談しながら患者さんに合ったケアを考えていけたらと思いました。専門的な知識に触れる機会を提供していただきありがとうございました。
- 褥瘡リハビリテーション講義での拘縮になる過程が画像付きで勉強になりました。褥瘡を悪化させないポジショニングの介入ばかりに視点を向けて患者さんに関わっていたため今回の研修で学んだ褥瘡発生予防対策の実践をしていきます。藤田先生のストーマの講義がイラスト、動画のある資料で大変わかりやすかった
- 貴重なご講義ありがとうございました。WOCさんだけではなく、医師からの講義も聞いたのがと

でも印象的でした。今回の講義を振りかえって、自分の施設でも伝達講習をしたいと思います。普段お話しを聞くことのできない先生方の講義をたくさん受けることができ、とても嬉しかったです。また現場に活かしていきます。

#### ■研修方法等への感想・ご意見、要望など

- 全体的に講義と講義の間の時間が短く感じましたので、もう少し休憩時間があればよいと感じました。
- 講義合間の休憩がないこと、時間通りに講義が終了しなかったことに関しては仕事に影響があり困ったことがあった。
- グループワークでは様々な意見を聞くことができ、学びになりました。他にも色々な事例を検討したいなと感じました。
- グループワークは慣れていないせいか、誰が話をしているのか分かりにくいこともあり、少しコミュニケーションがとりにくく感じました。しかし、オンラインだからこそ、幅広い病院の人と話し合えたことで知識の幅も広がりました。
- オンラインでの講習は初めてでしたが、チャットで質問ができること、返答が返ってくることでしやすかったと思います。
- 質問がチャットででき情報共有できたことがよかった。
- オンライン特有の電波トラブルや音声トラブルがなければ、よかったと感じた講義もありました。
- 日程が数日にわたる研修の場合は平日の開催日を増やしてほしい。休日であると勤務中の受講が許可されない。
- 講義のスピードが速く、内容を理解しようと考える間もなかったです。受講日の日数が増えてもいいので、もう少しゆとりのある講義スケジュールであってほしいと感じました。
- 開始時間があと 15 分でも遅かったら助かる。
- 初めての ZOOM での受講で PC や iPad 操作がわからずかなり戸惑ってしまいました。
- 現在外科病棟に 4 か月間のブラッシュアップ研修中なのですが、テキストがかなり網羅されており、勤務の際に毎日参考にさせていただいております。
- いろんな分野の方から細かいところまで講義を受けることができ、このようなプログラムをつくっていただきとても感謝いたします
- 対面でしたら他の受講生との交流などもありより良いです。
- 今回は基礎でしたが、ステップアップした研修も企画して頂きたいと思います。

#### 2) 全体的な評価と今後の課題

本研修に対する参加者からの評価は非常に高く、WOC 各分野における専門的知識の習得や、臨床実践に直結する内容であったことが明らかとなった。DESIGN-R2020、IAD-set、スキンケア、ABCD-stoma などの評価ポイントについて具体的な理解が深まり、褥瘡やストーマケア、排泄ケアに関する知識も体系的に整理されたとする意見が多く寄せられた。また、医師やリハビリ専門職など多職種による講義が行われたことで、幅広い視点からの学びが得られ、より包括的な看護ケアの理解につながった。これにより、自身の知識の偏りや課題に気づき、今後の学習目標を明確化できたとする声が目立った。

グループワークでは、他施設の参加者と活発な意見交換が行われ、リスクアセスメント能力や推論力、計画修正能力など、多面的な視点を共有することができた。緊張を感じる参加者がいたものの、様々な意見に触れることができた点については有意義であったとの評価が多い。一方で、オンラインでの進行においては、わかりづらい、コミュニケーションが取りづらいなどの課題も挙げられた。研修方法に関しては、チャット機能による質問のしやすさや、情報共有のしやすさがオンライ

ン研修の利点として挙げられた。ただし、休憩時間の不足や講義の進行スピードの速さ、開始時間の早さについては改善を求める意見が見られた。特に、講義間の休憩時間が少なく集中力の維持が困難であったこと、また初めてオンライン研修を受講した参加者にとってはPC操作の面でも不安があったことが指摘されている。加えて、平日開催の少なさや勤務中の受講が認められない施設事情など、研修参加にあたってのハードルについても課題として挙がっており、今後の運営上の工夫が求められる。

本研修は参加者の知識の深化と実践力の向上に大きく貢献し、自施設でのケアの質向上に寄与する内容であったと評価できる。一方で、研修の効果をさらに高めるためには、プログラムの時間配分、参加環境への配慮などについて改善が必要であると考えられる。

## V. 石川県看護教員現任研修

### 1. ねらい

- 1) 令和6年能登半島地震での被災及び震災支援経験を共有し、看護基礎教育に活かす。
- 2) 教材研究に活かせる研究方法を学ぶ。
- 3) 地域・在宅看護論を再考する。

### 2. 実施状況

研修日時	7/6 (土)	8/10 (土)	9/21 (土)	11/2 (土)
研修参加者数 (人)	24	10	59	31

### 3. 実施内容

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催場所
7/6 (土)	10:00～ 11:00  11:00～ 12:00	看護学生に対する 震災後の長期的なメンタルヘルス ケア 相談を受けながら、少しでも解決で きるように講義や話し合いを行う	<講師> 石川県立看護大学 名誉教授 武山雅志 <全体進行> 石川県立看護大学 教授 石川倫子	七尾看護専 門学校

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催場所
8/10 (土)	9:30～       11:00～ 12:00	ともに支え合おう！Part 1 学生・教員による震災支援  被災地での活動や1.5避難所等での 活動と学びについて報告し合う 1) 石川県立看護大学 2) 金沢医療センター附属金沢看護 学校 3) 金沢大学 4) 田鶴浜高等学校 質疑応答 看護教員の学び (20分) ともに支え合おう！Part 2 教員による震災支援 1) 金城大学 金谷雅代先生 2) 石川県立看護大学 米澤洋美先生 3) 田鶴浜高等学校衛生看護学科 庄藤智恵美先生 4) 石川県立看護大学教員 寺井梨恵子先生	全体進行： 石川県立看護大学看護キャ リア支援センター 池田富三香  <座長> 石川県立看護大学 准教授 木田亮平 講師 田村幸恵  <座長> 石川県立看護大学 教授 石川倫子 講師 石井和美	石川県立看 護大学 大講義室

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催場所
8/10 (土)	12:00～ 13:00	質疑応答 学生・看護教員の自由交流 (自由解散)	<交流推進担当> 南條・瀬戸・千田	石川県立看護大学 大講義室

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催場所
9/21 (土)	10:00～ 12:00  13:00～ 14:30	<講演・演習> 複線経路等至性モデル (TEM) の概要と TEM を活用した研究の実際	<司会> 石川県立看護大学 准教授 木田亮平 <講師> 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 看護管理学／看護体系・機能学分野 助教 井上真帆	石川県地場産業振興センター

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催場所
11/2 (土)	10:00～ 12:00  13:00～ 14:30	<講義> 地域・在宅看護論に活かす訪問看護の実際 在宅療養者の願いをかなえる —看護の意味を探して—  <演習：グループワーク> 地域・在宅看護論の意味を問いなおす	<司会> 石川県立看護大学看護キャリア支援センター 池田富三香 <講師> 北須磨訪問看護・リハビリセンター 所長 藤田愛 <講師> 石川県立看護大学 教授 石川倫子	石川県立看護大学 研修室(オンライン研修)

#### 4. 評価

##### 1) 受講者の学びから (一部)

##### (1) 令和6年能登半島地震での被災及び震災支援経験を共有し、看護基礎教育に活かす

- 自分たちも被災している中で学生にどのように向き合い接していけばいいのかをかんがえさせられる時間となりとてもよかったです。普段から学エイト時間を共有し関係を築きながら話をしてくれたタイミングをのがさずキャッチできるようにしたいです
- 学生の思いを聞くことはもちろんだが、「できた」という思いだけで対応してはいけない。よく学生の背景を知ってから関わるのが大切。時間をかけてゆっくりと焦らない。学生が言いたいことを思った時にしっかりきくを心がけていきたい
- 被災学生に対し、いつでも話できるよう日頃から忙しいそ振りをみせないよう気を付けたいと思います
- 長期的なケアが必要であると思います。
- 地震から半年がたち、学生は「大丈夫」と言っているので深く聞くのも違うのかという思いがあ

ったが数年たっても不安など大きくなることもあるので話しやすい環境をつくっていくのが大切だと思った。実習でも患者さんも被災者というときもあり、学生との関りもかんがえていく必要があると思った

- 震災関連だけでなく、子供対象のみでなく被災した大人、患者さん、被災していない学生さんにも通じる（自分の体験の中で想定できている）お話でした。今後非常に活かせることを学べました。
- 被災レベルも今の状況もバラバラの生徒ですが、「今ここに一緒にいる人」としてひとりひとりに丁寧に関わっていきたくと改めて思いました。また、生徒達の活動を支援するときには「何か」をしながらコミュニケーションを図ることでストレス少なく「良かった」と生徒が思えるように振り返りを大切にしていきます
- 被災した生徒（それ以外の生徒も）話せる環境をつくったり、自己肯定感を高めることができるようなミニチャレンジの設定を行っていきたくと思った
- 被災状況がそれぞれ違う学生と接するうえでその違いを踏まえた支援方法をしることができた
- 自分も被災しているなかで、震災にあった学生が今どのような状況にあるのか正直忘れてました。表面だけみるのではなく、その学生の内面を感じて関わっていけるよう明日から学生と向き合いたくと思います。
- 生徒のセルフイメージの回復にミニチャレンジが必要でそのチャレンジで傷を深めないように達成感が得られる工夫が必要だということ→本校の被災ボランティア活動はまさに生徒にとってセルフイメージの回復につながり再構築になるよう生徒とともに歩んでゆきたい
- 震源地となった場合の学校の役割を認識した。教育機関として具体的にどう動くか、学生をボランティア活動へとどう導くかという点について、非常に参考になった。
- 学生がボランティア活動できるように、バックアップする仕組みを作る大切さ。学校としての方針を決定し、保護者等の理解を得ていく大切さ。教員の中に社会福祉協議会とのつながりを持つ必要性(災害ボランティアコーディネーター)。日頃から災害になった時の身を守る方法、生活を守る方法について教育していく大切さ。
- 「学びを止めない」ために、教員としてできることを考えていきたい。
- 看護師として看護師を目指す者として、何ができるかを考えていくこと。災害を通して、成長や学びにつなげられるようにしていくことが必要だと感じた。また、自らも被災しながら看護に視点で生活を守っていった実際の活動に深く感動した。
- ボランティア活動は生徒を成長の機会になるということを教員が意識することが大事と学べた。
- 写真洗浄やオープンチャットでのボランティアメンバーとの意見共有など、幅広い支援の形を知ることができた。また、ボランティアメンバーに着目した質疑応答があつてボランティアメンバーが受ける影響についても考える機会になった。
- 若者の力に感動した。若者の力を発揮させるような教育的働きかけを考えていきたい。印象に残ったことば。学びを止めない。共助がないと自助が高まらない。心的外傷からの成長。
- 自分も被災者でありつつ、できることをしてきましたが、能登で教える側として経験を伝える事。また、自分自身も落ち着いてきたため、支援が必要な地域に学生と共に直接支援、間接支援につなげていきたく思いました。
- 日々の指導、学生との関わりはしっかりと学生の中に伝わっているんだなあと感じました。日々、その自覚を持って関わっていきたくです。
- 学生個々でのボランティア参加はあるが、学校全体としてはボランティア活動がすすんでいない(すすめられていない)状況がある。今後、ボランティア活動を推進していくために参考になりました。大学だけ(同士)のつながりだけでなく、高校、専門学校、大学、行政がつながる組織づくりが必要になると感じました。

## 【学生の学び】

- 今回の活動報告では学生側からの発表、教員の先生方からの発表があり、両方の立場からどのようにして災害支援して関わられたかということを知ることができました。この機会に私達学生が、ボランティア活動して参加(企画)することが、できるのは先生方が市町とのマッチングや交通手段の確保、お金の調整などをしてくださっているからだと改めて感じ感謝を伝えたいと思いました。
- 能登半島地震の被害やボランティアについて知ることができました。自分はまた何かしたいと思いつつ行動ができていないのでボランティアを探すきっかけになりました。また、授業では触れにくい災害看護の視点を発表して下さった学生の方や教員の方から聞き、新しい視点を得ることができたので、今後自分がどのようにすれば良いのか考えるきっかけになったし、幅が広がったと感じます。

## (2) 教材研究に活かせる研究方法を学ぶ

- 分析方法のレパートリーがふえた。
- 初めてTEMについて教えていただき自身の質的記述的研究における参考にもなりました。自身で作成してみて自分の看護師人生の振り返りにもなりました。
- 実際に研究に使いたい
- 学生指導につまずいた際に自己や学生の振り返りにも活用したいと思いました
- 自分の経験を振り返るときに参考にしようと思う
- 学生の行動の振り返りツールにも使えると感じた。
- 退学、休学について悩んでいる学生に対して、今までの心理状況を整理することができると思いました
- 看護師の認識を理解するための手法として活用していきたいと思いました
- 同じ目標(国試)に向かう生徒でも色々な思いや迷いがあり、その際にこのモデルのように等至点に至るプロセスを理解したり、セカンド等至点を知ることで、こちら側の支援できる幅も広がると思いました。看護学校なので、等至点は同じですが、なるべく前向きに、また、個性を伸ばすことができる教育ができるように、TEMを知ることができて良かったです
- 学生がみえていること、感じていること、促していることがどう影響して学びになっているのか分析することに役立ちそうだと思います。しかし、参加者にTEM図を見せたりとかなりご協力頂く必要がある点が課題だと思います。

## (3) 地域・在宅看護論を再考する

- 講義からその人を知ることの大切さ看護の本質を実感。素晴らしい講義でした
- もっと先生の事例を聞きたかった。
- ひとつひとつの事例や失敗から「それを無駄にせず次に活かす努力を続ける」を心に決めました。
- 教育現場の意見を臨床での実習に活かすことができる
- 学校の先生の意見も聞ける機会はあまりないので参考になりました
- 学生実習の際、どのような勉強、知識があるのか、どのように関わると良いかの、ヒントになったと思います
- 今までの看護実践で、本当に患者さんや家族が心から願っていたことを看護としてできていたのかを振り返る機会となったこと。また、現在教員として学生指導に当たっていて何を望んでいるか、どう過ごしていきたいと考えているかを学生とともに考えている。
- 現在、学生の受け入れはしていませんが、訪問看護をしながら現場にどんどん学生を出して、身

体で看護を体験してほしいと感じています。一生懸命看護をする姿からの学びはあると思います。3年前に、訪問看護をとお願ひされて恐る恐る始めましたが、訪問看護師の看護の在り様から、沢山の学びがあり看護の醍醐味だと感じている毎日です。

- 実践を振り返り、多数で検討することにより、看護が深まるため、事例検討を重ねていきたい
- 医療職者としての倫理観の持ち方と看護のあり方を学生にどのように教授したらよいかを改めて考えさせられました。学生へ願ひが伝わるよう、教育内容を見直していきます。
- 在宅療養支援において、身体的な命と心の命（生き方や願ひの実現）を看護の専門性をもって守っていくことが大切であり、その考え方を前提に外来で在宅療養継続支援を行う。
- 「二つのいのちの質」とても考えさせられました。患者さんや家族が、私たちとすごせてよかったと思ってもらえるように、いろいろな角度から話をしていきたいと思いました。
- 最後まで事例を聴きたかったです。午後のグループワークで、1.5次避難所の看護を経験された方から、報告が看護だと思っている看護職がいること、自分がその状況でできる看護がないのか、とにかく基本的な看護ができる、手を差し伸べることでできる学生を育ててほしいと意見されたことが、とても印象に残った。在宅だからとか、避難者だからとか場所や対象の分別でなく、看護の原点を思い起こす研修でした。
- 学生が患者と関わる時に、現在のことだけでなく、退院後の生活や希望についても話を聞けるよう指導したいと考えました。
- 患者さんのことを何うにしても主導が私たち側にあるのではないこと、患者さんの望みをしっかり聞いてケアに活かすこと、など実習でも学生に還元できる大切なことを改めて沢山学ぶことができましたし、気づかされました。

### (3) 受講者からの今後への要望

- 精神疾患や学習障害を持つ看護学生の支援について知りたいです（日々の学習支援、進路選択の支援）
- かかわりが困難な学生とどうむきあうか
- 今時の学生に対する対応（言葉がけ）やる気の引き出し方などについて
- 学校での災害教育のあり方について(実践をふまえて)報告を聞きたい
- 対面である、顔を合わせた、エネルギーを感じられとても良かったです。しかし、子育て中などあり、オンラインでも併用のハイブリッド形式で、して頂けると助かります
- 体験をまとめ話す、他者の体験を聞く貴重な場の提供。ありがとうございました。今後ともこのような機会が数多く企画いただけましたら幸いです
- 発達障害(LD、ADHD等)の看護学生に対する教育について、どのような合理的配慮が考えられるか学びたいです。
- 看護師の働く場所はそれぞれ異なりますが、このように多方面から考える研修を継続してほしいです
- 目的は異なるかもしれませんが、能登北部の特徴ある看護を理解する機会もあっていいなと思います。
- その時の看護教育のニーズに合わせた研修企画をして頂き、感謝しています

## 2) 全体評価

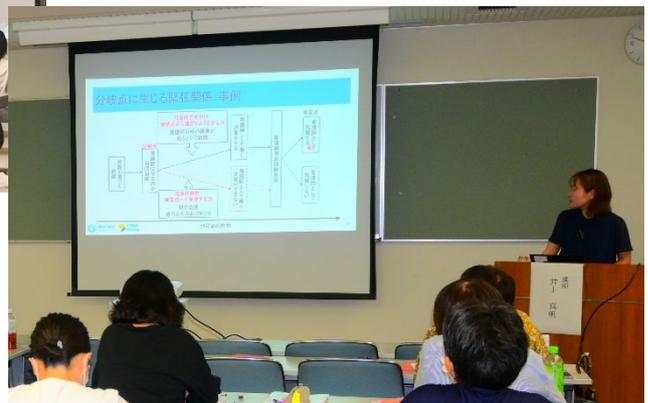
看護教員として直面する教育評価の課題、改正カリキュラムを展開する中で直面している課題に対して、課題解決の糸口を見つける機会になったのではないかと考える。研修では、互いの知恵から学び合うことができ、目標は達成できたと考える。

## 5. 今後の課題

改正カリキュラムの課題については、地域・在宅看護論がある。引き続き、研修を企画する必要がある。また、年明けとともに能登半島地震が発災した。看護学生とともに被災地域、被災者への支援を続ける中で、災害看護とは何かを学びあう必要がある。



8/10(土) 研修の様子 (シンポジウム)



9/21(土) 研修の様子 (石川県地場産業振興センター)

## VI. リカレント教育

### 1. 目的・目標

石川県の看護の質の向上につなげるために、看護キャリア支援センターは「リカレント教育事業(教員企画)」を募集し、4件の事業に対し助成する。

### 2. 実施事業および内容

事業名	事業責任者	実施月日	実施場所	参加者
皮膚・排泄ケア分野のスキルアップ事業	紺家千津子	2024.8.10	石川県立看護大学 オンライン	17名
シーティング講座	松本 勝	2024.11.17 2024.12.22	石川県立看護大学	14名
褥瘡管理：日々のケアを見直してみよう	北村 言	2025.2.15 2025.2.18	石川県立看護大学 オンライン	30名 41名
リンパ浮腫ケアの新戦略！ リンパ浮腫エコーアセスメント	臺 美佐子	2025.3.8	石川県立看護大学	12名

### 3. 評価および今後の課題

当センターにおいては初の事業である。申請4件はすべて採択し、申請補助金学内で、全事業を計画通り実施ができた。ただし、事業実施の講座に偏りがあるため、次年度は積極的な事業申請を働きかける必要がある。

## VII. 地域貢献

### 1. 各機関からの依頼による派遣事業

氏名	テーマ	主催者名	場所・機関	年月（西暦）
石井光子	能登半島地震災害支援活動 施設での皮膚・排泄ケア支援活動	石川県立看護大学 被災地支援	輪島市	2024
石井光子	シンポジウム 令和6年能登半島地震を経て今取り 組んでいること～復興に向けて 共に進んでいくために～	第31回石川県看 護学会	金沢大学附属病院 宝ホール、CPDセ ンター	2024.11.16
石井光子	褥瘡ケアケアの基本と褥瘡予防	石川県八田ホーム	石川県八田ホーム	2024.5.29
石井光子	「褥瘡ケア」	医療法人社団 映 寿会 介護老人保 健施設みらいのさ と太陽	医療法人社団 映 寿会 介護老人保 健施設みらいのさ と太陽	2024.7.10
宮崎 梓	能登半島地震災害支援活動 施設での皮膚・排泄ケア支援活動	石川県立看護大学 被災地支援	輪島市	2024
池田富三香	講義：認定看護管理者教育課程 ファーストレベル 人材育成の 基礎知識	石川県看護協会	石川県看護協会	2024.11.11 2024.11.12
池田富三香	研修：2024 マネジメント塾 in 南 加賀(1) 人の強みを見つけて活か す	石川県看護協会南 加賀地区	小松市民病院	2024.6.1
池田富三香	研修：2023 マネジメント塾 in 南 加賀(2) 問題解決から希望実現支 援へ	石川県看護協会南 加賀地区	小松市民病院	2024.7.13
池田富三香	研修：2024 マネジメント塾 in 南 加賀(3) やる気になる・やる気に させる看護チーム	石川県看護協会南 加賀地区	小松市民病院	2024.9.28
池田富三香	研修：2024 マネジメント塾 in 南 加賀(4) 認知的ケチからの克服	石川県看護協会南 加賀地区	小松市民病院	2024.11.9